

研究業績 等 (2017年10月現在)

I. 学位論文

- ・修士論文「GATT第3条の内国民待遇の解釈に関する一考察 —同種の製品の判断基準としての目的と効果のアプローチが意味するもの—」(1998年3月提出・大阪大学)
- ・博士論文「WTO法の国内規制措置に対する影響」(2006年9月提出・大阪大学)

II. 著書・論文

著書

- ・『WTO法と国内規制措置』(単著)、日本評論社(2008年7月)

論文

- “Sustainability, Certification Programs, and the Legacy of the Tokyo 2020 Olympics” (co-author with Isao Sakaguchi) in *Consumers’ Perceptions of Food Attributes* (S. Matsumoto & T. Otsuki eds.) (forthcoming, CRC 2018).
- “Food and Product Safety Issues in the TPP” in *Governing Science and Technology under the International Economic Order* (Shin-yi Peng et al., eds.) (forthcoming, Edward Elgar 2018).
「TPPと『食の安全』」『国際商事法務』44巻12号、1820～1827頁(2016年12月)。
「国際通商体制における規範の多層化—プライベート・スタンダードの拡大とガバナンスのあり方」『国際経済法学会年報』25号、186～209頁(2016年10月)。
- “Bioenergy and Trade: Explaining and Assessing the Regime Complex for Sustainable Bioenergy,” *European Journal of International Law*, Vol.27, No.1, pp.129-159 (April, 2016). 査読有。
「国際通商とプライベート・スタンダード—WTO・SPS委員会での議論とWTO外の対応」『経済産業研究所ディスカッション・ペーパー 15-J-046』1～22頁、
<<http://www.rieti.go.jp/jp/publications/nts/15j046.html>> (2015年7月)。査読有。
- “Labour Migration under the Japan-Philippines and Japan-Indonesia Economic Partnership Agreements” in M.Panizzon et al., eds, *The Palgrave Handbook on International Labour Migration* (Palgrave Publishing, 2015), pp.341-358. 査読有。
「国際通商体制と規制・基準の関係—古くて新しい非関税障壁の課題」『論究ジュリスト』第11号、137～142頁(2014年11月)。
- “The Dynamics of Private Food Safety Standards: A Case Study on the Regulatory Diffusion of GLOBALG.A.P.” 63 *ICLQ* 137-166 (2014) 査読有。
「バイオ燃料をめぐる国際通商—EUの持続可能性基準とその域外への拡散(一・二完)」、
『阪大法学』第62巻5号95～113頁、第62巻6号21～50頁(2013年3月)。
「第10章 国際法学との対話—WTOと遺伝子組み換え産品をめぐって—」『コンストラクティヴィズムの国際関係論』(大矢根聡編) 247～270頁(2013年3月、有斐閣)。
「WTO法と加盟国の非経済規制主権—GATT、SPS協定、TBT協定による新秩序」『国際経済法講座第I巻：通商・投資・競争』(村瀬信也編) 65～82頁(2012年11月、法律文化社)。
「WTOにおける科学の役割—SPS協定の限界と近年の体制内の変化」『国際法外交雑誌』第111巻1号1～19頁(2012年5月)。
「第11章 WTOと国際取引」『レクチャー国際取引法』(松岡博編) 227～243頁(2011年6

月、法律文化社)。

- “Assessing Policy Reach: Japan’s Chemical Policy Reform in Response to the EU’s REACH Regulation,” *Journal of Environmental Law*, Vol.22 No.2, pp.171-195 (2010) 査読有。
- “Accountability and Legitimacy in Global Health and Safety Governance: The World Trade Organization, the SPS Committee and International Standard-Setting Organizations,” *Journal of World Trade*, Vol.43, No.6, pp.1255-1279 (2009) 査読有。
- 「貿易紛争解決におけるソフトとハードの交錯－飯田報告に対するコメント」『ソフトロー研究』、第14号 (2009年11月)
- 「EUとWTOにおける遺伝子組換え製品に関する規制－EUの事前承認制度の特徴とWTO法の展開」『日本国際経済法学会年報』、第18号、pp.145-179 (2009年11月)、査読有。
- 「『貿易と環境』問題とレジーム間の相互作用－WTOと国際基準設定機関の関係から」『国際政治』、第153号、pp.106-121 (2008年11月)、査読有。
- 「SPS協定の機能と役割：WTOにおける遵守確保の多様化にむけて」『食の安全と貿易－WTO・SPS協定の法と経済分析』(山下一仁編) 所収、pp.197-213 (2008年4月)。
- 「国際通商と人の移動」『国際公共政策学入門』(高阪章編) 所収、pp.261-282 (2008年3月、阪大出版会)。
- “Shaping Mutual Recognition Regimes in Asia: Some Lessons from the Japan-Singapore Arrangement,” *Legal Issues of Economic Integration*, Vol.34, No.4, pp.349-367(November, 2007)、査読有。
- 「SPS協定の十年－二大紛争の影に隠れた歴史」『法律時報』、79巻7号、pp.32-37 (2007年6月)。
- 「ガット第20条における必要性要件～WTO設立後の貿易自由化と非貿易的関心事項の調整メカニズム」『日本国際経済法学会年報』、第15号、pp.217-256 (2006年10月)、査読有。
- 「地域貿易協定における『技術的貿易障壁』の取り扱い～相互承認の制度を中心として～」『経済産業研究所ディスカッションペーパー』 06-J-042 (2006年5月)、査読無。
- 「農業案件の履行・不履行問題：統計的アプローチからの示唆」『WTO紛争解決手続における履行制度』(荒木一郎・川瀬剛志編) 所収、三省堂、pp.287-312 (2005年10月)、査読有。
- 「セーフガードにおける国内産業の画定基準－製品の同種性に基づく画定基準の批判的検討」『WTO体制下のセーフガード－実効性ある制度の構築に向けて』(荒木一郎・川瀬剛志編) 所収、東洋経済新報社、pp.37-61 (2004年5月)、査読有。
- “The Mandatory/Discretionary Doctrine in WTO Law: The US-Section 301 Case and Its Aftermath,” *Journal of International Economic Law*, Vol.7, No.1, pp.23-72 (March 2004), 査読有。
- 「GATT 3条内国民待遇規定の機能と同種の製品の認定基準」『国際商事法務』第30巻1～12号・pp.15-19、165-168、323-327、475-478、643-647、785-788、951-953、1084-1087、1255-1257、1393-1396、1538-1540、1676-1678、31巻1号・pp.112-115(2002年1月～2003年1月)。
- 「WTOの紛争解決手続」『論点解説 国際取引法』(渡辺惺之・野村美明編) 所収、法律文化社、pp.213-225 (2002年3月)。
- 「WTOにおける健康保護を目的とする通商措置の取扱い－SPS協定の解釈適用－」『国際商事法務』第28巻、pp.1447-1452 (2000年12月)、第29巻、pp.50-55、191-197 (2001年1月、2月)。
- 「GATT第3条の内国民待遇義務における同種の製品の判断基準－目的と効果のアプローチの

再評価の試み」『国際公共政策研究』第3巻1号、pp.207-222（1998年10月）。

III. 報告・発表等

- Kobe University Workshop—Orchestration in Polycentric Governance, June 24, 2017, “The New Orchestrators in Transnational Sustainability Governance: Explaining the Role of International Trade Centre's Standards Map”
- Aoyamagakuin Workshop —International Symposium on Food Credence Attributes (Tokyo), May 12, 2017, “Private Regulation, Sustainability, and Tokyo 2020 Olympics”
- National TsingHua University Workshop—Governing Science and Technology in the Mega-RTA Era (Taipei), November 17, 2016, “Food and Product Safety Issues in the TPP”
- アジア経済研究所「環境規制の国際的波及及び分断化」研究会（JETRO, 2016年7月22日）「『規制の波及』研究の背景と展開」
- Int'l Studies Association Annual Convention 2016 (Atlanta, US), March 16, 2016, “How Can Orchestration Impact Private Sustainability Governance?—Seeking Harmonization and Credible Sustainability Claims”
- IPE研究会（金沢大学・東京分室・2016年2月11日）「プライベート・スタンダードの拡散と持続可能性の評価システムの開発—知識の生成過程とその影響の観点からの分析—」
- 2015年度日本国際経済法学会（早稲田大学・2015年11月30日）「国際通商制度におけるプライベート・スタンダード—その役割と問題点—」
- 2015年度国際政治学会研究大会（仙台・2015年11月1日）部会報告「持続可能な食と農業分野におけるオーケストレーション—国際機関とプライベート・アクターの関係に注目して—」
- Workshop of Sociological Inquiries into International Law, at Munk School of Global Affairs, University of Toronto, 9-10 October, 2015, presentation entitled, “Engaging in Sustainable Development: Knowledge and Practices Generated by Voluntary Sustainability Schemes and International Organizations.”
- 2014年度国際政治学会研究大会（福岡・11月14日）分科会報告「規制・基準の増加が国際貿易体制に与える影響—競争とフラグメンテーションを超えて」
- 2013年度国際政治学会研究大会（新潟・10月27日）部会「多国間交渉の政治学」討論者
- 2011年国際法学会春季大会（明治大学・5月）報告「WTOにおける科学の役割—SPS協定の限界と近年の体制内の変化—」
- Conference: Markets for Migration and Development (Bern, Switzerland), September 14, 2011, presentation entitled, “Migration of Health Workers Under the Japan-Philippines and Japan-Indonesia Economic Partnership Agreements: Challenges and Implications of the Japanese Training Framework”
- Asian International Economic Law Network (AIELN) at Univ. of Hong Kong, July 16, 2011, presentation entitled “The Role of Private Standards in Food Safety: How ‘Good Agricultural Practices (GAP)’ in Europe Affect Asian Agricultural Markets”(in Panel 5 Multilateral and Regional Challenges: Development, Climate Change, Energy and Agriculture)
- 2010年度国際政治学会研究大会（札幌・10月30日）部会報告「ソフトロー研究の現在：ソフトローの選択、影響の仕方、実効性の観点から」
- OECD Workshop and Policy Dialogue on Technical Barriers to Trade, OECD, Paris, October 6, 2009, presentation entitled “TBT provisions in Japan’s RTAs: Some Prospects for Greater Convergence

of TBT Policies” (in the session of ‘Are Regional Trade Agreements Breaking Down TBT?’).
Asian International Economic Law Network (AIELN) Inaugural Conference, University of Tokyo,
August 3, 2009, presentation entitled “OverREACH: The Impact of the EU’s REACH Regulation
on Asian Chemical Policies.”

東京大学グローバルCOEプログラム：シンポジウム「紛争解決におけるソフトとハードの交錯」
2009年3月3日、第3セッション「貿易紛争解決におけるソフトとハードの交錯」コメンテ
ーター。

2007年度国際政治学会研究大会（福岡・11月）・部会報告「国際関係論と国際法の対話：リー
ガライゼーション、遵守、規範の視点から」

IV. 判例評釈

「WTO・パネル上級委員会報告書解説(21) 米国－原産国名表示要求（COOL）事件・履行確
認手続（DS384/RW、386/RW）－TBT協定2.2条の解釈枠組みの明確化－」（経済産業研究
所 RIETI PDP 17-P-025、2017年8月）

「WTO・パネル上級委員会報告書解説(20) 米国－マグロラベリング事件・履行確認手続
（DS381/RW）－TBT協定2.1条における正当な規制の区別と“calibration”概念－」（経済産
業研究所 RIETI PDP 17-P-024、2017年8月）

「WTO・パネル上級委員会報告書解説⑨ 米国－原産国名表示要求（COOL）事件（DS384、
386）－生鮮食品の原産国名表示と国際貿易－」（経済産業研究所 RIETI PDP 14-P-022、
2014年9月）

「WTO・パネル上級委員会報告書解説⑥ 米国－マグロラベリング事件（メキシコ）（DS381）
－TBT紛争史における意義－」（RIETI PDP 13-P-014、2013年8月）

「WTO・パネル上級委員会報告書解説⑤ 米国－クローブ入りタバコ規制事件（インドネシア）
（DS406）－TBT協定2.1条とGATT3条4項の関係を中心に－」（RIETI PDP 13-P-013、
2013年6月）

「WTO・パネル上級委員会報告書解説④ オーストラリア－ニュージーランドからのリンゴの
輸入に関する措置（WT/DS367/R、WT/DS367/AB/R）－科学的基礎を求めるSPS協定第5
条1項の義務の射程を中心に－」（RIETI PDP 11-P-015、2011年5月）

V. 書評

「(書評論文) 増加する『指標』とグローバル・ガバナンス」『国際政治』188号118～128頁
(2017年3月)。

「紹介 大矢根聡著 『国際レジームと日米の外交構想—WTO・APEC・FTAの転換局面』
『国際法外交雑誌』第112巻2号124～128頁(2013年8月)。

「(書評論文) 遵守研究の展開：国際法の遵守への国際関係論からのアプローチ」『国際法外交
雑誌』第109巻1号82～93頁(2010年5月)。

Joanne Scott, *The WTO Agreement on Sanitary and Phytosanitary Measures: A Commentary*
(Oxford University Press, 2007) 『日本国際経済法学会年報』第16号229-232頁(2007年)。

Robert E. Hudec, *Essays on the Nature of International Trade Law*(Cameron May, 1999) 『国際法外交
雑誌』第101巻4号91-95頁(2003年)。

Regulatory Barriers and the Principle of Non-Discrimination in World Trade Law (Thomas Cottier and

Petros C. Mavroidis eds., Ann Arbor: The University of Michigan Press, 2000 456p.)『日本国際経済法学会年報』第10号173-176頁 (2001年)。

VI. 学外の業務

- 日本国際政治学会、60周年記念部会企画委員、2014年11月～2016年10月
- 経済産業省、通商・貿易分科会 不公正貿易政策・措置調査小委員会委員、2013年11月～
- 日本国際経済法学会理事 2009年－2012年、2012年－2015年、2015年－2018年
- *Transnational Environmental Law* (Cambridge Journal), Advisory Board member, 2012年1月～2014年12月